

ヨークベニマルPRESENTS
第61回 福島県高等学校バスケットボール選手権大会
兼2024年度 第77回 全国高等学校バスケットボール選手権大会福島県予選会

男子決勝

クルーチーフ 香 野 学
 1stアンパイア 植 田 浩 司
 2ndアンパイア 加 藤 淳 也

福島商
(県北)

74

●

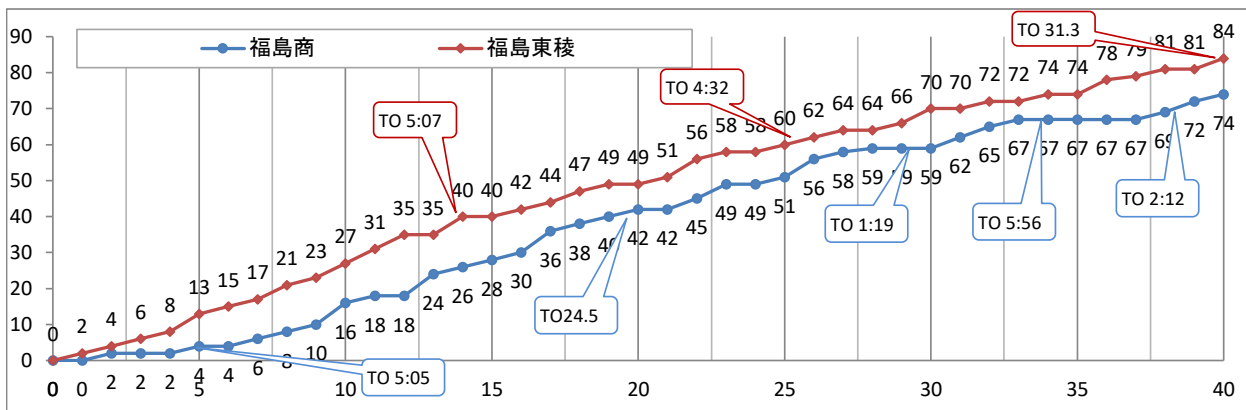
16	-	27
26	-	22
17	-	21
15	-	14
-	-	-

84

○

福島東稜
(県北)

No. 5M1 日時: 2024年11月3日(日) 10:30 会場: 県営あづま総合体育館



福島商

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 柳 内 海 輝 (C)	32	5	8	1	2
5	* 齋 藤 涼 太	9	1	2	2	1
6	* 鈴 木 健 斗	6	2	0	0	1
7	櫻 井 洸	0	0	0	0	0
8	* 郡 司 真 也	9	0	4	1	3
9	菅 野 亮	10	0	5	0	1
10	小 針 大 翔	-	-	-	-	-
11	氏 家 恵 悟	4	1	0	1	3
12	齋 藤 瑠 佑	2	0	1	0	1
13	荒 井 謙 志*E	-	-	-	-	-
14	佐 藤 伸	-	-	-	-	-
15	渡 辺 海 輝	-	-	-	-	-
16	齋 藤 昊 史	-	-	-	-	-
17	黒 澤 皇 凱	0	0	0	0	0
18	* 狗 飼 雅 博	2	0	1	0	2
コーチ	水 野 慎 也					
合計		74	9	21	5	14

福島東稜

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
0	* 加 藤 旭 陽 (C)	10	0	4	2	1
3	* 小 倉 志 龍	14	0	7	0	1
4	佐 藤 悠 斗*E	-	-	-	-	-
6	* 皆 川 智 哉	18	1	7	1	0
7	* 中 田 直 希	4	1	0	1	2
14	濱 野 夢 大*E	-	-	-	-	-
16	柳 沼 佑 哉	-	-	-	-	-
17	齋 藤 ア リ ン ゼ 陽	2	0	1	0	1
19	船 木 楽	0	0	0	0	2
27	渡 部 隼 太	-	-	-	-	-
30	菅 野 虎 太 郎	-	-	-	-	-
77	高 橋 洋 人	0	0	0	0	1
85	結 城 翔 二 朗	-	-	-	-	-
91	小 野 寺 陽 大	4	0	2	0	0
99	* モ モ ア ブ ド ル サ モ ド コ リ ン ス	32	0	12	8	2
コーチ	山 本 陽					
合計		84	2	33	12	10

*…スターター (C)…キャプテン 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル

*E…エントリー変更

戦 評

第1Q 互いにマンツーマンディフェンスでスタート。福島東稜(以下東稜)は、#99を大黒柱にゴール下を固め、相手のレイアップでの得点を阻む。オフェンスでは#3ドライブからの得点から始まり、#99のポストプレーやオフェンスリバンドからのゴール下、#7の3Pや#0、#3のジャンプシュートやドライブなどの絞らせない多彩な攻撃を展開する。対する福島商業(以下福商)は5アウトでオフェンスを展開したが、相手の#99を中心としたゴール下での堅い守りに阻まれ、思うようにペイントアタックができず、開始5分で前半1回目のタイムアウト。ドライブからのフィニッシュや3Pなどのアウトサイドシュートもリングに嫌われて苦しい序盤となりながらも#5のゴール下や#4の3Pやジャンプシュート、#8・#9のドライブなどで対抗したが、27-16で東稜がリードして1Q終了。

第2Q 福商はオフェンスの重い展開を払しょくし、流れを引き寄せようと間合いをさらに詰めてディフェンスの強度を上げ、ディフェンスリバンドからの速攻を中心に反撃のきっかけをつかもうと試み、#4のドライブや3P、#5・#8・#9のドライブで追撃を図る。東稜は、#99が攻防の柱としてゴール下で存在感を発揮し、攻守にわたってリバウンドを獲得しゴール下やファウルを受けてからのフリースローで得点を量産すると共に、#3・#6・#17・#91のドライブで対抗。49-42で東稜がリードして2Q終了。

第3Q 後半も互いにマンツーマンディフェンスでスタート。東稜は、#3のスティールからのレイアップを皮切りに、#6・#91のドライブや#99のゴール下、#0・#6・#7のフリースローで着実に得点を重ねる。残り1分、2-3のゾーンディフェンスで相手の流れを断ち切る。福商はディフェンスから速い展開でのオフェンスを試み、#4のドライブや3P、#9・#12の得点や#11のフリースローで巻き返しを図ろうとするが、70-59で東稜がリードして3Q終了。

第4Q 福商はオールコートプレスからの気迫のディフェンスで巻き返しを図る。#5・#6・#12の3Pや#8・#9の速攻からのレイアップで追撃を図るが、ペイントアタック思うようにできず、良い形の3Pシュートが決まらない苦しい展開が続く。東稜は序盤1-3-10のゾーンディフェンスを敷いて相手に流れを譲らない。#3のスティールからのレイアップや#6・#91の得点、#99のゴール下での得点やフリースロー、さらには速攻からのダンクシュートも飛び出し、最後まで相手に流れを渡さずに、84-74で東稜がインターハイの雪辱を果たし、全国大会への切符を手にした。試合終了後、会場からは最後まであきらめずに必死にプレイした福商の選手たちと、最後まで相手の猛追に耐え抜きながら、それぞれの役割に徹し続けて勝利をものにした東稜の選手たちに惜しめない拍手が送られた。今後も両チームの活躍に期待したい。

記事者 鈴木 慎 也 (所属) 県南バスケットボール協会